

分娩2週間前の乳汁チェックで乳房炎予防を！

こんなお悩みありませんか？

初乳搾乳時から
乳房炎っぽい……



泌乳初期から
体細胞数が高い……

どうして??

乾乳期に、乳房炎を起こす細菌に感染した可能性があります！

注意！ 乾乳期の感染危険時期

- ① 乾乳直後2週間(乳頭口が完全に締まるまでの期間)
- ② 分娩2週間前(乳頭口がゆるむ時期)

どうしたらいいの??

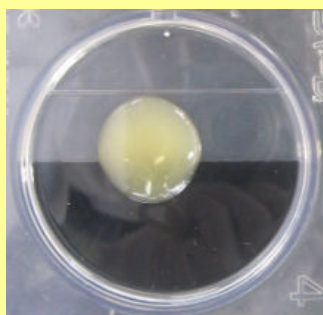
分娩前の乳汁をチェックしてみましょう！

方法： 分娩2週間前の乳汁を、PLテスト用シャーレに搾り、

- ① 乳汁の性状を観察
- ② PLテストを実施

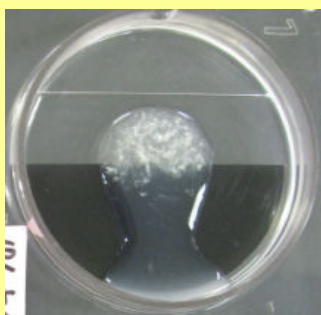
※搾乳後はディッピングを忘れずに

<乳汁性状にみられる3パターン>



アメ状

正常な状態です



水様性(ブツ混入)

PLテストで陽性になる場合が多いです



初乳様

PLテストが陽性になったら、獣医師による治療を行い

分娩後の乳房炎の発生を予防しましょう！（治療については獣医師に相談を）

裏面の対策も参考に！

乾乳期は、乳腺を休ませ“リセット”する絶好のチャンス！

乳房炎の予防は乾乳期から

ポイント1 乾乳期に入る前に…
乳房炎をきちんと治しましょう！（症状が分かりにくいものを含め）

① 泌乳期からの乳房炎の治療

⇒泌乳期中に乳房炎にかかり、乾乳前まで続いている場合は、獣医師による細菌検査や、有効薬剤治療を行ってから乾乳しましょう。（乾乳期用軟膏も使用します）

② 乳房炎にならなかった牛でも、乾乳期が近づいたらPLテストを実施

⇒PLテストで乳房炎が疑われる場合は、獣医師による細菌検査を行い、有効性の高い乾乳期用軟膏を使用しましょう。

ポイント2 乾乳期に入ったら…
乾乳期中の新たな感染を予防しましょう！

① 乾乳期用軟膏の使用

⇒軟膏注入の際は、乳頭口を傷つけないよう注意しましょう。

② ディッピングによる感染予防

⇒乾乳後、乳房が萎縮し乳頭口が締まるまで（2週間程度）、毎日朝夕2回のディッピングを実施しましょう。

⇒分娩前に、漏乳する牛についても実施してください。

③ 牛床の清潔・乾燥を保つ

⇒分娩前は特に、十分な敷料を用意し、清潔を保ちましょう。

ポイント3 乾乳方法を見直しましょう
急速乾乳法でストレスの少ない乾乳を！

乾乳牛舎に牛を移動できる場合は、急速（一発）乾乳法がおすすめ

⇒徐々に搾乳回数を減らす漸減乾乳法では、移行期間が長くなるため、新たな感染の機会が増えるほか、不規則な搾乳や過搾乳によりストレスが大きいと考えられています。

乳房炎予防の視点から
あらためて乾乳期の管理について考えましょう！

